

アジアに架ける虹の橋

アジア生協協力基金 活動報告書 2012

2011年度は、東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響を受けて、いくつかの企画が中止や延期となりましたが、実施された事業では、様々な分野で、アジアに住む人々の暮らし、健康、食など、確実に前進し、アジア生協協力基金がわずかながらでもお役に立っていることがうかがえました。

公益財団法人として生協総研が一般公募の助成事業を始めてから3年目を迎えましたが、2011年11月30日までに寄せられた応募数は、12組織と2010年の8件から徐々に増加傾向にあります。これは、東京ボランティア・市民活動センターや国際協力NGOセンター（JANIC）の協力を得てそれぞれのホームページで広報していただいた成果でもあり、両センターのご協力に感謝申し上げます。

国際協力事業では、初めてのアジアの生協間のPB商品に関する交流会がベトナムで開催され、各国の生協組合員のニーズに沿った開発や商品基準の交流が行われました。またフィリピンの生協の会議では、フィリピンとインドネシアでの店舗開発と運営の比較を、インドや韓国の視点も入れて検討し、同じ協同組合組織として率直な意見交換の新たな実践が始まっています。

一般公募事業でも、カンボジアの子どもたちへの給食事業に現地の高校生が先頭になって活動している状況、スリランカの内戦で夫を亡くした女性たちの自立のための起業活動、モンゴルの市場経済化とともに広がる子どもたちの虫歯に対しての予防活動や学校保健制度導入への歯科協同組合の努力、ネパールの寒村での農協づくりなどが報告されました。医療福祉生協連による韓国医療生協の人材開発支援や大学生協連によるフィリピンでの学生参加の生協作りなど、協同組合間の協力も発展してきています。

先進国が経済危機や低迷する経済成長に悩む中、発展途上のアジア各国は、今、歴史的な大きな成長期を迎えています。しかし、過去に先進国が経験したように、成長の狭間で経済や社会の矛盾も大きくなってきており、だからこそ協同組合やNGOの活躍が期待されています。国連が2012年を国際協同組合年と定めたのも、国際社会の協同組合への期待の表明でしょう。

アジア生協協力基金は、アジアで活動する多くのNGOやNPOにより一層開かれたものにする努力を継続したいと考えております。今後も引き続き、皆様のご協力をお願い申し上げます。

2012年6月

公益財団法人 生協総合研究所

専務理事 芳賀 唯史



アジアに架ける虹の橋

アジア生協協力基金活動報告書 2012

Rainbow in Asia



■ はじめに	1
■ 目次	2
■ 第1章 アジア生協協力基金の概要	3
1. 設立の経緯	4
2. 2011年度アジア生協協力基金の基本財産と一般正味財産	4
3. アジア生協協力基金運営委員会	5
4. 寄付の方法	5
■ 資料 アジア生協協力基金・生協別寄付金一覧表	6
■ 第2章 2011年度の活動報告	7
1. 2011年度アジア生協協力基金活動のまとめ	8
2. 2011年度アジア生協協力基金の決算	8
3. 2011年度のアジア生協協力基金活動の特徴	9
4. 個別の活動報告	12
4-1. 国際協力助成企画（3件）	12
4-2. 一般公募助成企画（6件）	15
■ 第3章 2012年度の活動計画	25
1. 計画決定の経緯	26
2. 2012年度のアジア生協協力基金事業計画	26
3. 2012年度のアジア生協協力基金予算	27
4. 2013年度の一般公募について	27



第1章

アジア生協協力基金の概要

● ● ● 目次

1. 設立の経緯
2. 2011 年度アジア生協協力基金の
基本財産と一般正味財産
3. アジア生協協力基金運営委員会
4. 寄付の方法

資料 アジア生協協力基金
生協別寄付金一覧表

1 設立の経緯

アジア生協協力基金は、1987年に日本生活協同組合連合会（以下、日本生協連）とその会員生協の寄付金によって、アジアの生協・協同組合の発展に貢献し、また、日本の生協とアジアの生協・協同組合との交流・協力活動の推進を目的として設立された基金です。基金の管理は、監督官庁の指導もあり、また、特化した管理を行うために1989年に財団法人生協総合研究所（以後、生協総研）の設立とともに、生協総研に移管されました。さらに、2009年、生協総研の公益財団法人化に伴い、生協総研・理事会のもとに基金の運営・管理を行う「アジア生協協力基金運営委員会」が設置されました。

アジア生協協力基金の活動は、1991年、基金の運用益を利用した初めてのアジアの生協役職員のための教育・研修活動を行い、以後、この活動は、継続されてきました。

こうした活動を通して、韓国、ベトナム、シンガポールなどでの生協の大きな発展に貢献することができました。また、アジアのいくつかの国々では大学生協や医療保健協同組合の活動が広がり、「ICA（国際協同組合同盟）アジア・太平洋地域」にも大学、青年、医療保健の協同組合の分野別の委員会が設立されてきました。さらに協同組合における男女共同参画推進や女性のエンパワーメントの活動から「女性委員会」が設立されるといった成果が生み出されてきました。

2000年からアジア生協協力基金は、日本とアジアの生協との交流を促進するために、また、さらに多くの日本の生協による基金の活用を促進するために、全国の生協の組合員の国際交流事業に対する助成活動を行ってきました。

2010年度からは、公益財団法人としての公益性を強化するために、日本国内に拠点を有する非営利団体・グループへの助成を開始しました。助成の対象事業は、これらの日本国内の団体によって、アジア各国で展開される人と人との協力した事業、協同組合的な運営を志す事業における人材開発や事業の立ち上げなどのプロジェクトです。初年度の2010年度は5団体6事業に約370万円、2011年度には6団体6事業に400万円、2012年は7団体に400万円の助成を決定しています。

2 2011年度アジア生協協力基金の基本財産と一般正味財産

2011年度の基本財産と一般正味財産（利息）は以下のようになります。

(1) 基本財産

- ①2011年度期首残高 : 878,408,737円（2011.4.1現在 100生協）
- ②2011年度内基金受増額 : 539,368円（2012.3.31）

* 上記金額は、満期保有目的の債券の取得価額と額面価格の差額を償却原価法（定額法）によって処理した金額です。

- ③2011年度期末残高 : 878,948,105円（2012.3.31 100生協）

(2) 一般正味財産の増減

- ①2011年度期首 : 28,977,975円（2011年4月1日）
- ②2011年度期中の増減

・ 増加

受取利息等 : 12,175,030円

・ 減少 :

i) 国際協力助成企画 : 3,065,081円

アジア生協協力基金から国際協力助成企画として日本生協連・国際活動委員会企画を助成した金額です。

ii) 一般公募助成金 (6組織) 4,000,000円

iii) 基金運営費用 318,031円

iv) 2010年度活動報告書作成費 649,000円

v) 事務管理費 1,904,999円

減少合計 : 9,937,111円

③2012年3月31日の残高 : 31,215,894円

(3) 2012年度期中の受取利息見込み (約1,346万円)

有価証券および定期預金の運用により見込まれる収益です。なお、2011年度満期更新の有価証券については、中・長期の国債等に切り替えを行って利息収入の増加を図っています。

3 アジア生協協力基金運営委員会

2009年5月に開催された生協総研理事会は、「公益財団法人における公益目的事業としての位置付けを明確にするために、アジア生協協力基金の運営に関する事業計画の起案、公募企画の募集・選考、事業報告の検討のために、理事会の下に運営委員会を設置し、運営委員会の議を経て理事会が意思決定を行う」ことを決定し、委員を選任しました。委員会の構成は、生協総研の理事および評議員と外部専門家の4名です。2012年度もすべての委員が再任されました。

委員長 庄司 興吉 (東京大学名誉教授、生協総研理事)

委員 赤石 和則 (拓殖大学教授、拓殖大学国際開発教育センター長)

伊野瀬十三 (東京都生協連会長理事、生協総研評議員)

田中ひとみ (さいたまコープ理事、生協総研評議員)

4 寄付の方法

アジア生協協力基金への寄付は、(公益財団法人)生協総合研究所が申し受けます。寄付金の振込先は、生協総研のアジア生協協力基金専用口座になります。アジア生協協力基金への寄付をご希望の方は事務局へご連絡ください。

アジア生協協力基金生協別寄付一覧表

生協名	87-2011総合計	生協名	87-2011総合計	生協名	87-2011総合計
北海道生協連	450,000	コープしが	2,270,000	北医療生協	100,000
コープさっぽろ	6,400,000	ならコープ	1,821,263	乙訓医療生協	100,000
小計	6,850,000	わかやま市民生協	600,000	よどがわ保健生協	100,000
コープあおもり	200,000	京都生協	4,000,000	ヘルスコープおおさか	300,000
秋田県生協連	200,000	大阪いすみ市民生協	9,000,000	医療生協かわち野生協	200,000
コープあきた	200,000	エスコープ大阪	50,000	尼崎医療生協	300,000
岩手県学校生協	200,000	おおさかパルコープ	4,500,000	神戸医療生協	200,000
いわて生協	1,021,000	生協連合会きらり	50,000	姫路医療生協	400,000
みやぎ生協	6,100,000	コープこうべ	73,197,471	岡山医療生協	200,000
生協共立社	600,000	神戸大学生協	200,000	広島中央保健生協	200,000
コープふくしま	1,550,000	小計	103,947,173	広島医療生協	200,000
福島県南生協	100,000	おかやまコープ	2,200,000	松江保健生協	200,000
コープあいづ	800,000	生協ひろしま	2,200,000	愛媛医療生協	100,000
小計	10,971,000	鳥取県生協	100,000	高知医療生協	200,000
いばらきコープ	1,500,000	生協しまね	403,630	くるめ医療生協	100,000
パルシステム茨城	100,000	コープかがわ	500,000	鹿児島医療生協	200,000
とちぎコープ	1,060,000	香川県庁生協	64,000	小計	5,720,000
コープぐんま	420,600	とくしま生協	200,000	会員生協合計	205,033,745
パルシステム埼玉	200,000	愛媛県生協連	100,000	脱退した生協の合計	1,104,200
生活クラブ生協千葉	200,000	コープえひめ	350,000	寄付組織合計	206,137,945
ちばコープ	5,000,000	こうち生協	100,000	コープクリーン	5,000,000
さいたまコープ	4,000,000	小計	6,217,630	日本生協連 役職員	651,097
パルシステム東京	300,000	福岡県生協連	100,000	日本生協連	650,000,000
生活クラブ生協東京	600,000	エフコープ	2,000,000	受取利息繰入れ	12,993,682
東京都生協	1,000,000	佐賀県学校生協	30,000	一般正味財産修正繰り入れ等	3,141,636
コープとうきょう	12,000,000	ララコープ	300,000	償却原価法による処理額	539,368
シチズン生協	10,000	コープおおい	300,000	総計	878,948,105
大学生協連	1,500,000	大分県職員生協	2,000	累計	878,948,105
東京大学生協	300,000	コープみやざき	895,600		
パルシステム生協連合会	1,900,000	コープ熊本学校生協	50,000		
生活クラブ連合会	1,200,000	水光社	200,000		
コープかながわ	20,679,779	コープかごしま	2,000,000		
生活クラブ生協神奈川	265,000	コープおきなわ	1,000,000		
長野県生協連	200,000	小計	6,877,600		
コープながの	1,060,000	浜通り医療生協	20,000		
長野県庁生協	1,800	郡山医療生協	200,000		
新潟総合生協	500,000	はるな生協	200,000		
新潟県職員生協	1,618	東京保健生協	200,000		
コープしずおか	10,451,545	東京ほくと医療生協	200,000		
小計	64,450,342	川崎医療生協	200,000		
コープいしかわ	26,000	神奈川北央医療生協	100,000		
福井県民生協	349,279	ながおか医療生協	100,000		
コープあいち	6,753,160	富山医療生協	200,000		
コープぎふ	800,000	みなと医療生協	1,000,000		
コープみえ	330,000	南医療生協	200,000		

※生協名が変更されている場合は、現在の名称を使用しています。

※生協の合併があった場合は、現存の生協に寄付合計金額を記載しています。

※脱退等により現存しない生協は、「脱退した生協の合計」として寄付合計金額を表示しています。

※2011年度の寄付組織総数は100です。
(2012年3月31日現在、日本生協連、医療福祉生協連の会員組織)



第2章

2011年度の活動報告

● ● ● 目次

1. 2011年度アジア生協
協力基金活動のまとめ
2. 2011年度アジア生協
協力基金の決算
3. 2011年度のアジア生協
協力基金活動の特徴
4. 個別の活動報告
 - 4-1 国際協力助成企画（3件）
 - 4-2 一般公募助成企画（6件）

1. 2011 年度アジア生協協力基金活動のまとめ

2011年度、日本生協連・国際活動委員会が実行する国際協力助成企画では7企画が計画されましたが東日本大震災と東電福島原子力発電所の事故の影響により2企画が中止となり、更に、相手国の政府との共催で企画された事業が政府の都合により2012年度に延期され、また、1件が相手国の国内事情により中止となるなどにより3企画のみの実施となりました。

一般公募企画には、8組織からの応募がありましたが、審査の結果、6件のプロジェクトが助成対象となりました。年度内に全プロジェクトが実施され、また、助成対象組織からは、中間報告・終了報告が提出されました。2012年4月19日に、生協総研・会議室において事業成果報告会が開催され、6組織から事業内容、成果、今後の課題等についての報告がありました。詳細は、次ページ以降の報告をご覧ください。報告からは、アジア各国で、分野は異なるものの人々の協同による生活、健康、雇用、食の改善に結びつく活動の前進が確認されました。

一般公募では、2012年度の一般公募の受付が2011年10月1日～11月30日まで行われ12組織から12企画の応募がありました。書類審査では、すべての応募を有効と判断しました。2012年1月24日に12組織からの組織や企画のプレゼンテーションを受け、運営委員会では、7組織への助成を推薦し、2月10日の生協総研理事会が2012年度の助成先としてこれを決定しました。また、日本生協連・国際活動委員会から提案された2012年度・国際協力助成8企画についても理事会で承認されました。

2. 2011 年度のアジア生協協力基金の決算

2011年度は、国際協力助成に600万円、一般公募助成に400万円、事業関連経費に120万円の総計1120万円を予算として計上されました。国際協力助成の執行は、上記のように東日本大震災などの影響により3,065,081円の執行（執行率：51.08%）となりました。2年目を迎えた本格的な一般公募企画では、すべての事業が実施され、400万円が執行（執行率：100%）されました。また、2010年度の活動報告書「アジアに架ける虹の橋・2011年度版」が1,000部発行され、基金への寄付をいただいた生協や助成組織、関連組織に配布されました。この経費は配送費用も含めて649,000円でした。

アジア生協協力基金運営委員会開催経費等として318,031円が支出されました。また、2011年度の事務管理費は1,904,999円でした。

（各企画の決算概要）

	予 算	決 算	執 行 率
国 際 協 力 助 成	6,000,000	3,065,081	51.08%
一 般 公 募	4,000,000	4,000,000	100.0%
2010年活動報告書等	600,000	649,000	108.17%
運営委員会関連経費	600,000	318,031	53.0%
事 務 管 理 費		1,904,999	
総 計	11,200,000	9,937,111	88.72%

【未執行：1,262,889円】

(1) 国際協力助成企画（日本生協連・国際活動委員会企画、予算額：6,000,000円）

	相手国	企画名	予算額	決算額	差額
1	アジア	ICA-AP選抜生協マネジャー研修受入れ①	(1,500,000) 震災のため中止。予算は2と7の企画に振り分けた	0	0
2	アジア	ICA-AP選抜生協マネジャー研修受入れ②	2,200,000 (1,500,000+700,000)	2,318,333	-118,333
3	韓国	生協連合会推進委員会の調査研究支援	(300,000) 韓国国内事情で中止	0	300,000
4	ベトナム	協同組合食品事業交流会	530,000	390,609	139,391
5	フィリピン	ICA-AP生協開発セミナーへの講師派遣	670,000	356,139	313,861
6	カザフスタン	生協連代表団受け入れ	(725,000) 震災・東電福島原発事故により中止	0	725,000
7	スリランカ	生協セミナーへ講師派遣	(800,000) スリランカ政府の要請により2012年度実施に延期	0	800,000
		予算費	775,000	0	775,000
合 計			6,000,000	3,065,081	2,934,919

(2) 一般公募助成企画（予算額：4,000,000円）

	団体名・相手国	助成事業企画概要	助成決算額
1	特定非営利法人 オアシス(カンボジア)	貧困村の子どもたちへの支援者養成プログラム	798,000
2	全国大学生協連(フィリピン)	第1回生協のための国際会議(大学生協の経験交流と連帯づくり)	400,000
3	NGO TECHJAPAN(スリランカ)	地方女性が起業するためのワークショップ・調査・多言語テキストブックの開発	700,000
4	日本医療福祉生協連(韓国)	医療生協幹部の日本の医療福祉生協マネジメント研修	462,000
5	神戸医療生協(モンゴル)	歯科医療と公衆衛生の向上および健康チェックの担い手養成	1,000,000
6	公益財団法人PHD協会(ネパール)	第29期ネパールからの国内研修及び帰国研修生のフォローアップ	640,000
合 計			4,000,000

3 2011年度のアジア生協協力基金活動の特徴

3-1. 国際協力助成企画（日本生協連・国際活動委員会企画）

①ICA-AP生協委員会が実施する日本での生協店舗マネジャー研修

2011年度、震災被害によりみやぎ生協での研修を中止し、10月21日～11月6日までコープこうべ・コープネット事業連合に研修生の増員をお願いして実施しました。4カ国（シンガポール、韓国、インド、ベトナム）6名の研修生は、コープデイズ神戸北町店舗での実践的研修のほか、コープネット事業連合や日本生協連で、日本の小売事情、全国生協の動向、組合員活動や事業連合会の役割も学びました。

②ICA-AP協同組合商品事業交流会

9月4日～9月8日、ベトナム・ホーチミン市で開催され、7カ国と香港インターコープ（欧州生協の共同仕入れ組織）の約30名が参加しました。各国生協のPBへの考え方、開発プロセスなどを交流するものです。日本生協連は、商品政策部長を派遣し、フェアプライス生協やインターコープとともに日本の生協のPB開発の現状を紹介しました。初めての交流会でしたが、アジアの生協の大きな成長が確認される機会ともなりました。なお、会議では、サイゴンコープとフェアプライス生協の合併事業として2012年中にホーチミン市内にハイパー店舗が開店することも報告され、アジアでの生協間の新しい協力関係が誕生しました。

③ICA-AP生協開発セミナー

フィリピン協同組合連合会の受け入れによるICA-AP生協委員会ワークショップが12月13日に開催され、海外6カ国24名とフィリピンの24名の参加で開催されました。今回の特徴は、日本以外に韓国とインドネシアの店舗運営経験が紹介され、また、スウェーデン協同組合センター（SCC）の指導を受けてきたフィリピンとインドネシアで、好調なインドネシアの経験は低迷するフィリピンに大きな示唆をあたえることができました。

3-2. 一般公募企画活動

①特定非営利活動法人オアシス：カンボジア貧困村の子どもたちへの支援者養成プログラムの実施

シェムリアップ州アンコール・クラウ村のコミュニティセンターを中心に7月から3月までの9か月間、月2回、総計18回の雑炊の給食を行い、延べ2900人の子どもたちの栄養状況改善に貢献しました。また、この事業を延329人の青年が食材や薪の買い出し、造成した畑の野菜栽培管理、幼児の世話、煮炊きと配ぜんの支援を行いました。健康教育ワークショップでは、日本の紙芝居のクメール語への翻訳、上演も青年が担い、村内のゴミ集めの先頭にもたっています。ただ、当初の27名の青年が15名に固定化されてきており、再度の掘り起こしが必要とオアシスは判断しています。

②全国大学生協連：第1回生活協同組合のための国際会議（フィリピン）

国際会議は、9月29日・30日の二日間にわたり、マニラ市内のセント・トーマス大学で開催され、9カ国から約80名の学生・教職員・生協職員が参加しました。学生が参加する大学生協がまだ定着していないアジアで、同大学の副学長や学生部のマネジャーから学生協同組合のスタート支援や期待が述べられたのは新しい発展です。各国からの報告や小グループに分かれての討論など高等教育現場での一層の生協発展が論議されました。

③NGO TECHJAPAN:スリランカの地方女性が起業するための、3カ国語によるテキストブックの開発

2011年8月27・28日、南部ゴール市において個人で事業をしている25名の女性を対象としたワークショップを開催、講師は、消費事業省・教育生協のアドバイザー/生協組合長/コロombo大教授（ビジネスコンサルタント）が担当しました。また、11月19・20日には、北部の戦闘地域だったトリンコマリにおいて、人種・宗教の異なる22名（内、半数が夫を戦争で亡くしている）の参加で、西貞子（元ワーカーズコレクティブ代表）を講師に、働き方と暮らし方のワークショップを開催し

ました。いずれにおいてもこれまで、第3者からの彼女たちへの「事業計画立案」や「市場調査」、「中長期計画」について一切の支援がなく、今後のテキスト作りの共同作業は、事業の確立と平和で新しい社会づくりへの一歩が期待されます。

④日本医療福祉生協連合会：韓国医療生協（仁川平和医療生協）のマネージメント研修

韓国医療生協・ソンヨンソク氏の日本での1ヶ月を超える研修は、「総会の運営」等も研修項目とし4月～5月に実施を予定しましたが、東日本大震災により11月1日から12月10日までの実施となりました。韓国の医療生協は16存在しますが、いずれも事業、組合員数、出資金等において規模が小さく、その原因がマネジメント・人材育成にあるとされ、この克服を目指す研修でした。広島中央保健生協をメインの研修先とした研修では、組合員の意見を反映させる事業の取り組みや事業拡大を組合員によって行う対策などを研修し、東京の連合会本部では、医薬品共同購入、通信教育、会員支援活動、渉外活動などを研修しました。研修生は、最後のまとめで、当初の目標を達成したと述べるとともに、逆に日本の生協の社会的影響力の弱さを指摘していました。二つの国の協同組合の対等な交流が発展してきています。

⑤神戸医療生協：歯科医療と公衆衛生の向上および健康チェックの担い手養成

毎年3回、モンゴルを訪問し、プロジェクトを実行してきました。7月の企画は、出発直前の参加者の都合で中止となり、12月に実施しました。9月は歯学部学生を含めて12人の参加で企画しましたが出発日に台風と遭遇し、期間を短縮しての実施となりました。1月のプロジェクトは、6名で実施しました。学校歯科保健制度のないモンゴルにこの制度を導入するべく3ヵ年計画の2年目で幼稚園・小学校での実践を積み上げています。また、市場経済化とともに急速に広まる子どもの虫歯の予防のために七つの幼稚園の先生を対象にしたセミナーも行いました。今回、黒田医師は、モンゴル国立医科大学歯学部の客員教授に任命され、学生へのセミナーや実習も行いました。カウンターパートのエネレル歯科協同組合の技術や企画実務レベルも確実に向上し、日本の支援なしでの外部の検診などが実施されてきています。

⑥PHD協会：第29期国内研修及び帰国研修生フォローアップ

2011年、PHD協会は、30周年を迎えました。2011年4月14日にインドネシアのエリザ・フィトリさん、ネパールのパッサン・ラマさん、ラメシュ・シュレスタさんが来日、6週間の日本語研修の後、それぞれの専門分野での研修を行い、3月13日に帰国しました。協同組合についてはコープこうべの協力を得て理念・目的・歴史などのほかコープこうべの食品工場、農園を訪問したほか、組合員活動も学びました。研修生のフォローアップでは、7月にネパール・カブレ郡を訪問し、農業協同組合づくりを視察するとともに、協同組合についての勉強会を3回開催しました。理念から実践へと確実に研修が成果を挙げてきています。

4 個別の活動報告

国際協力助成企画 1

実施組織名 コープこうべ、コープネット事業連合、日本生協連

ICA-AP生協マネジャー研修

■助成金額■
2,318,333円

実施期間◎ 2011年10月21日～2011年11月6日

相手国◎ インド、韓国、シンガポール、ベトナム

アジア4カ国より6名の生協マネジャーが来日し、生協の店舗運営を中心テーマに、職員教育、魅力ある売場づくりを学びました。

2011年度のアジア生協マネジャー研修は、2つの研修企画を計画しましたが、東日本大震災の影響により、みやぎ生協での研修受入れが中止となったため、コープこうべやコープネット事業連合のご協力を得て、研修参加者の枠を6名に拡大し、実施しました。

研修の前半、研修生たちは、日本生協連で日本の小売事情についての講義を受け、コープとうきょうが開催する「食べるたいせつフェスティバル」、さいたまコープの環境配慮型店舗、コープネットが運営するエコセンターを見学し、生協の組合員活動や環境の取組を学びました。

コープこうべでの研修では、コープこうべの概要、店舗事業を中心に魅力的な売場づく

り、業務改革、職員教育などの研修に加えて、産地見学を体験するプログラムが準備されました。今回、すべての研修生が、同じ職場に働く「職員の仕事に対する動機付け」を課題としていたことから、職員への理念教育の重要性、産地見学を通じてのPB商品に対する理解を促進する仕組みなどを紹介しました。コープデイズ神戸北町での店舗実習では、店長より店舗運営の現場で大切にしていることの説明があり、研修生たちの店舗における課題に関する質疑が活発に行われました。

研修プログラムのなかの講義や実習内容が、実践的なものであったことから、研修終了時の報告会において、帰国後の「自分たちの店舗での職場運営、売場づくり」での具体的な行動計画が報告されました。また、4カ国の生協マネジャーは、研修講師による講義だけでなく、研修参加者同士の交流の中で、それぞれの課題について、意見を交換し合う場が生まれました。



コープネット
エコセンター見学



コープデイズ
神戸北町での
店長講義

コープこうべ報告会を終えての集合写真



国際協力助成企画 2

実施組織名 日本生協連

ICA-AP協同組合商品事業交流会

■助成金額■
390,609円

実施期間◎ 2011年9月4日～2011年9月8日

相手国◎ ベトナム

ICA-AP生協委員会加盟の生協が集まり、各国の生協の商品、PB商品開発など、事業活動の経験を交流しました。

この商品事業交流会は、国際協同組合同盟・アジア太平洋（ICA-AP）の生協委員会が主催した初めての、生協の商品・PB商品に対する各国生協の考え方や開発プロセス等の経験交流会でした。ベトナムのサイゴンコープが受入組織となり、ホーチミン市内で開催されたものです。参加者は、ベトナムから約30名のほか、日本3、シンガポール10、韓国3、タイ2、インド2、スリランカ1、香港インターコープ1（欧州生協の共同仕入れ組織、本部・香港）、ICAスタッフなど50名を超える参加がありました。

交流会では、まず、日本から、生協の事業構造と動向、事業連帯の概要の紹介が行われ、さらに、シンガポールのフェアプライス生協とベトナムのサイゴンコープから、両者のベトナムにおける店舗開発に関する提携の報告がありました。その後、PB商品事業について日本生協連、シンガポール・フェアプライス生協、韓国・iCOOP連合会、インターコープが報告するとともに、質疑応答を行いました。日本生協連への質問では、日本国内のコープ商品開発における協同組合間協同の事例、コープ商品の開発プロセス、コープ商品を含む日本のチェーンストアのPB商品の開発トレンドなどに関するものでした。

アジア生協協力基金の助成により、アジア

各国の生協が、それぞれ独自の商品開発を行っていることや商品を通じての生協の特色を、相互に学ぶ場を設定することができました。またインド、スリランカの生協でもPB商品の開発を始めており、商品事業強化にPB商品が果たす役割や、開発のノウハウなど、有益な情報を提供できました。

ICA-AP生協委員会の企画は、従来は日本の経験を他国に伝える一方通行の交流になりがちでしたが、現在はシンガポール、ベトナムの生協が実力をつけてきています。多くの国々の経験を報告し、交流することが可能となっており、ICA-AP生協委員会の一層活発な活動への改革が確立されてきています。



日本、シンガポール、ベトナムとインターコープの事業や商品開発に関する報告と意見交流を行いました。

ICA-AP生協開発セミナー

■助成金額■
356,139円

実施期間◎ 2011年12月13日

相手国◎ フィリピン マニラ

アジア各国の生協の店舗運営実践を学びあう



フィリピン全国協同組合連盟（以下NATCCO）を受け入れ組織として、首都マニラ・ケソン市内にてICA-AP生協委員会ワークショップが開催されました。海外からは、インド、韓国、インドネシア、中国、日本の5カ国より24名、フィリピン国内からは協同組合開発庁（以下CDA）を含む、協同組合関係者24名の合計48名が参加しました。

ワークショップでは、以下4名によるプレゼンテーションが行なわれました。

- (1)CDA エマニュエル・サンティゲル局長「フィリピンの生協の現状と課題」
- (2)NATCCOセシリア・デラクルス氏「コープマート店舗の開発と課題」
- (3)韓国iCOOP オ・ミエ会長「韓国iCOOPの店舗事業戦略と店舗運営政策」
- (4)LAPENKOP（インドネシア協同組合評議会・DEKOPINの教育研修機関）のブディ・パ

ラセティヨ氏 「コープマートプロジェクトを通じた生協開発」

(1)・(2)のプレゼンテーションでは、フィリピンの協同組合の概要と生協の活動形態、小売流通に関する一般市場の状況と生協の現状が報告されました。(3)の韓国iCOOPの報告では、同生協の「Natural Dream」店舗事業について紹介されました。(4)インドネシアLAPENKOPの発表では、近年急速に拡大を遂げたコープマートの店舗運営の事例紹介がされました。

今回の会議の成果は、第一に、日本以外のアジアの様々な国から講師を招くことにより、各国の多様な事業環境の中で活動する各国生協の店舗運営の経験を交流することができました。またフィリピン国内の生協間の交流をすることができ、そして将来における事業協力の可能性について論議することができました。

第二に、フィリピン・インドネシアとともにスウェーデン協同組合センター（SCC）の支援を受けて、生協店舗（コープマート）づくりを進めてきましたが、インドネシアの成功とフィリピンにおける行き詰まりの対比から、フィリピンの生協づくりにおける事業環境分析、資源投入の不足などの問題点を明らかにすることができました。協同組合組織だからこそ率直な論議となった会議でした。



ICA-AP生協委員会ワークショップを終えて

一般公募助成企画 1

実施組織名 特定非営利活動法人 オアシス

カンボジア貧困村の子どもたちへの
支援者養成プログラムの実施■助成金額■
798,000円

実施期間◎ 2011年4月1日 ~2012年3月31日

相手国◎ カンボジア

カンボジア王国シェムリアップ州アンコールクラウ村は、
アンコール遺跡群

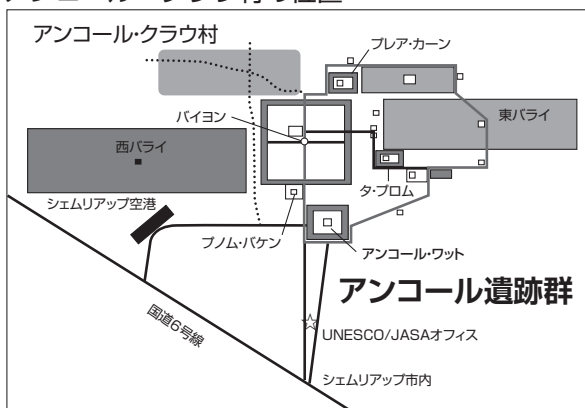
西部の寒村で、伝統的な農業技術に頼っているため十分な食料生産が望めません。こうした貧困のため小学校6年生まで通える子どもは村の三分の一もいない状況で、子どもたちは常に空腹になやまされてきました。

オアシスは、村のコミュニティーセンターにおいて2011年7月から2012年3月までの9ヶ月

間に、月に2回の割合で子どもたちを対象とした18回の雑炊給食を実施しました。参加した子どもの数は、延べ人数で2900人になります。実際のプロジェクト運営は、オアシスの現地カウンターパートであるJST（アンコール遺跡の保全と周辺地域の持続的発展のための人材養成支援機構・Joint Support Team for Angkor Preservation and Community Development, 2005年設立）の指導する地元青年グループが行っており、この青年たちが本事業の絶対的な推進力です。この青年たちは、村人の協力も得ながら、給食の食材確保のために野菜畑の開墾も行い、経費の節約に貢献しています。また、給食準備の時間を利用して、子ども達に、健康教育にかかわるワークショップを3回実施し、栄養の偏りがちな子どもたちの食と体についての理解も深めています。

オアシスは、5月にスタッフ3名が現地を訪問し、事業実施に向けて村長や青年グループとの協議を行いました。また、6月～7月にかけて、かまどとそれをカバーする覆屋を設立し、第1回（27人の青年の協力により200人の子供に給食）、第2回（27人の青年による100人の子供に給食）を実施しました。8月には、青年たちが2アールの野菜畑を開墾しました。10月には、再度、現地に4名のスタッフを派遣するとともに、JST代表のチア・ノル氏によるワークショップ「歯磨きをしよう」を実施

アンコール・クラウ村の位置



JST の活動地域



しました。2012年1月にもスタッフ2名を現地に派遣し、クラウ村青年による日本の紙芝居をクメール語に翻訳し、第2回目のワークショップ「朝ごはん食べた？」を実施しました。3月には、青年海外協力隊として現地教員養成学校で教える小八重桂子氏を講師に第3回目のワークショップ「体のしくみとその働

き」が行われました。このように、子どもたちに「食」から「知」を満たす場所としての機能も加わってきています。また、青年たちは、村内の美化運動も開始しており、貧困村が青年たちの活動やNGOなどの支援も得て、新しい村に変わろうとしてきています。



小八重さんの講義風景



料理が待ちきれない子どもたち



給食調理用のかまどづくり



給食に満足する子どもたち

一般公募助成企画2

実施組織名 全国大学生生活協同組合連合会

第1回 生活協同組合のための
国際会議

実施期間◎ 2011年9月29日～ 2011年9月30日

相手国◎ フィリピン

フィリピンで学生参加の生協を全国に広げる一歩

2011年9月29日～30日までの二日間にわたって、第1回目の学生生活協同組合のための国際会議がフィリピンで開催されました。主催は、2011年に設立されたフィリピン学生サービス生協（PSSCoop）とICAアジア太平洋・大学・キャンパスコープ委員会です。学生が主体的に参加する生協に興味を持つフィリピンの大学学生部の職員が中心に、複数の大学の職員が協力して準備してきた企画です。9月29日の1日目はフィリピンとアジア各国からの活動報告、2日目はワークショップを中心に行われました。折からの台風の影響を受けたものの、フィリピンから20名近くの学生が参加し、会議全体では、9カ国から約80名の学生、教職員、生協職員が参加しました。会場となったセントトーマス大学の副学長のFr.Pablo T. Tiong, O.Pより大学として、生協の発展を祈念し、学生協同組合のスタートを

支援したいとの表明がありました。また、学生部のマネジャーからは、まさにこの二日間の会議が、高等教育への新しいフレームワークを与えてくれるだろうとの期待も述べられました。

日本から参加した学生理事からは、グループワークについて以下のような感想が寄せられました。『教職員の多いグループでは「店の運営主体」、「学生が関われる生協を作ることの困難」などの生協設立の課題が議論され、学生中心のグループでは「理想の生協」、「期待される事業内容」といった理想を出し合っていた。』、『フィリピンでは日本と違い、大学生協の位置づけがまだ明確になっていないため、日本のように生協の役割が明確になっている国の話はとても新鮮だったようだ』。また、他の国の生協を見たり話を聞くことで、日本の大学生協が日本という国の



報告をするタイのチュランロンコン大学生協学生理事

中でどんな役割があるのか、どんな意義があるのかを改めて確認することが出来ました。

並行して行われたICAアジア・太平洋 大学・キャンパスコープ委員会年次会議には、9カ国から代表が集まり、2012年の地域ワークショップ（開催地：マレーシア）の具体化や、国際協同組合年（IYC）の各国の取り組みなどについて活発に議論が交わされました。2012年の地域ワークショップでは高校生協の取り組みも紹介するという新たな発展方向が生まれました。会議では、大学生協連から東日本大震災と大学生協の震災復興の取り組みについて報告しました。震災後、多くの

国から励ましのメッセージと寄付金が寄せられており、大学生協連を代表して感謝の意を伝えました。

大学生協連は引き続き、フィリピンを含めアジアで大学生協の設立・発展の支援を続けていきます。

また、今回セントロ・エスカラー大学を訪問し、大学関係者および生協関係者と懇談、生協施設の見学を行いました。生協では、学生の要望により移動手段や看護バック、靴なども最近、品ぞろえに加えていました。



東日本大震災について大学生協連から報告



ICAアジア・太平洋 大学・キャンパスコープ委員会年次会議



店頭に並ぶパパイヤ(フィリピン大学生協)

一般公募助成企画 3

実施組織名 NGO TECHJAPAN

スリランカの地方女性が起業するための
3ヶ国語によるテキスト開発■助成金額■
700,000円

実施期間◎ 2011年6月～2012年2月29日

相手国◎ スリランカ

女性の自立に向けた起業支援を開始します

NGO TECHJAPANは、2005年6月にスリランカ北部において、内戦・津波の被害を受けた女性・子供たちに職業技術の訓練を通して生活の自立を目指すことを目的に日本に設立されたNGOです。2008年4月にスリランカ中北部・バブニアに現地NGO SEWALANKA VAVUNIYAの協力を得て裁縫センターを設立しました。当時の研修生20名は、現地に住む18歳～50歳までの女性で、全て、津波・内戦被害を受けた方々でした。9月には、中北部海岸のトリンコマリーにも裁縫センターを立ち上げ、9人の研修生を支援しました。しかし、4年後に内戦が激化し、撤退を余儀なくされましたが、この時の経験でプロジェクトの

課題として、内外の支援金に頼らない自立したビジネスとして確立するために、ビジネス能力・資金・マーケティングネットワークの開発が明らかになりました。

2009年の内戦終了後、スリランカ国内には約9万5千人もの一家を背負い、自分たちの手で家族を食べさせなければならない女性たちが残されました。NGO TechJapanをはじめ、数多くのNGOが女性達の経済自立を手助けするため、裁縫をはじめ、畜産業、農業、製パン業など多岐に渡る就業開発プロジェクトを始めています。NGO TECHJAPANは、2011年、アジア生協協力基金などの助成を受けて再度、スリランカでのプロジェクトを開始し



ゴールでのワークショップ



ワークショップの講師

ました。このブック・プロジェクトは、2ヶ年計画で、1年目には、ワークショップを開催して、起業ノウハウを研修するものです。第1回を8月27・28日に、スリランカ南部のゴールで開催しました。参加者は、女性28名で、講師には、コロンボ大学ビジネスコンサルタント

カラピーリス（女性）さん、ウヴァ郡生協の組合長・ウドヴィダ（女性）などです。第2回目のワークショップは、11月19・20日、トリンコマリーで開催し、女性30名（シンハラ・タミール・ムスリム）が参加しましたが、この講師には、前ワーカーズコレクティブ代表西 貞子にお願いしました。また、同時に実施した南部と北部の50名の女性を対象とした調査では、①現在、女性たちは生活のために

商売をしている、②その内容は、母親たちがやっていることをまねしている、③事業計画・マーケット調査などの情報や知識を持っていない、④中期、長期の経営計画をつくる知識やそのための支援を一切受けていないということなどが明らかとなりました。このためブック・プロジェクトでは、2012年のアジア生協協力基金の助成を利用し、シンハラ・タミール・英語の3カ国の漫画形式の本を、①ビジネスを成功させた地元女性のストーリー、②ビジネスと経営の基本知識、③グローバルマーケットへの認識、④ビジネス・コンタクト・リスト、⑤協同組合についての説明といった構成で作成・普及することとしています。



一般公募助成企画 4

実施組織名 日本医療福祉生活協同組合連合会

韓国医療生協(仁川平和医療生協)の
マネジメント研修■助成金額■
462,000円

実施期間◎ 2011年11月01日～2011年12月10日

相手国◎ 韓国

韓国の医療生協職員が、日本の生協経営やマネジメントを研修しました

韓国の医療生協は、2010年の改正生協法に基づき、全国の13生協で2011年12月に韓国医療生協連合会を結成しました。連合会傘下の会員世帯数は、2万4千戸で、出資金総額は35億ウォン、また、約1300名の活発な組合員が生協運動をけん引しています。各生協は、連合会誕生前も「医療生協連帯」という連合組織を通してお互いの活動や運営の交流を行いながら、生協発展への努力を重ねてきました。しかし、医療生協の誕生が1994年ということもあり、事業、組合員、出資金のいずれも規模の拡大が不十分であり、その原因がマネジメントや人材育成の遅れとされてきました。このため韓国側から、2010年に主要幹部の長期研修の要望が医療福祉生協連にだされました。これを受けて日本側では、2011年4月の来日により、総会の準備からガバナンス、コンプライアンスなどを体験学習するプログラムを検討していましたが、東日本大震災により緊急・復興支援のため延期せざるをえませんでした。11月に改めて広島中央保健生協を基本研修地とした1か月超のプログラムを設定し、仁川平和医療生協のソンヨンソク氏が来日しました。広島での研修は、①組織分野(組合員・出資金を増やしたり、組合員向けのニュースの発信な

ど)、②経営分野(必要な剰余を明確にした予算作成と管理、組合員の要求に基づいた事業戦略の立案と長期計画の作成など)、③教育分野(組合員教育・とりわけ協同組合について)、④保健福祉分野(地域で手軽にできる保健予防活動のメニュー・転倒予防体操など)、⑤地域連携分野(特別養護老人ホームや障害者施設との連携の重要性など)です。12月5日からは、帰国前の数日間、東京で全国連合会での研修が開始されましたが、ソンさんの要望に沿った内容で研修プログラムを設定しました。①全国連合会の機能では、共同購入事業と通信教育、人材教育と看護職の研修会事業、連合会のガバナンス、②都市部における在宅医療・介護事業の問題点と利用者・患者の抱える問題の把握、③全国レベルでの医療・介護の問題点、④社会的企業視察では、生活クラブ生協、日本希望製作所、エコメッセなどを訪問しました。韓国医療生協は、3年間で会員を50生協・10万世帯、10年後に会員100生協を目指しています。ソンさんからは、270万を組織する日本の医療生協の社会的影響力の弱さや自身の活動への評価の低さを指摘されました。今後の、一層、相互の連携の発展の基礎がつけられた研修でした。



韓国医療生協からの研修生 ソンヨンソクさん



食を通して健康を考える班会では講師を務めました



看護師長研修会に参加し、マネジメントを学ぶ

モンゴル人によるモンゴル人の健康づくり活動

■助成金額■
1,000,000円

実施期間◎ 2011年4月～2012年3月

相手国◎ モンゴル

歯科協同組合「エネレル」の自立がすすんでいます

2011年度も3回のモンゴル訪問が実施されました。第1回目、7月のモンゴル訪問企画は、直前の参加者のキャンセルで中止となり、12月に実施しました。9月の企画は、出発日の3日台風直撃で飛ばず、二日後の5日にも6名の学生が飛行機の席を取れず、参加を辞退していただき、11名の参加で11日までモンゴルを訪問しました。学校歯科保健の定着を目指した3カ年計画（2年目）の実践としてウランバートル市内で幼稚園と小学校での予防活動、地方都市・エルデネット（Erdenet、首都から380km、バスで片道8時間～9時間）に出向き幼稚園での園児と教師への歯科保健予防活動、更に歯科医師へのセミナーを行いました。また、首都では、国立と私立の二つの医科大学歯学部（Faculty of Dentistry）の学生と日本の学生の交流を実

施したほか、恒例となっている障がい者施設での歯科予防活動、歯科協同組合（労働者協同組合）エネレルでの診療技術指導を行いました。

第2回目は、12月12日～16日までのモンゴル訪問でしたが、イレギュラーな時期でもあり、黒田医師単独の訪問となりました。この訪問のトピックスは、黒田医師が国立医科大学歯学部の客員教授に、エネレルのイチン医師が臨床教授に任命され、この任命式に参加したことと、歯磨き指導用ビデオの作成のため、エネレル歯科看護師・サラさん親子をモデルにした子ども寝かせ歯磨きの撮影を行ったことです。

第3回目は、2012年1月20日～25日まで6人が参加しました。冬の訪問でのメインの活動



モンゴル・エルデネットの園児への歯磨き指導

は国立と私立の医科大学歯学部でのセミナーと実習ですが、さらに障がい児施設・幼稚園・小学校での治療や予防活動、幼稚園の先生を対象とした歯科疾患予防セミナー、エネレルスタッフへの技術セミナーを実施しました。

エネレル職員は、予防活動の準備から実行まで事前打ち合わせをすることでかなり自立して行えるようになりました。幼稚園での活動は彼女達だけでも行っています。虫歯予防教室だけでなく、具体的媒体としての人形劇づくりによって日常保育での園児への指導が行えるようになってきています。健康づくり活動でも、エネレル職員が血圧や体脂肪率の測定、尿チェック等だけでなく、事後指導も

できるようになっています。

後継者育成として行っている歯科大学でのセミナーなどによりエネレルへの就職希望が増えています。また、エネレル歯科での日常診療や予防は、医科大学の教官と比べてもかなりレベルが上がっているとの評価を得ています。

今年3回の現地活動に、神戸医療生協職員が延べ6人が参加し、モンゴルの歯科医療の現状と厳しさを学び、さらにそこで働く歯科スタッフ達の熱意と頑張りに触れることで、日本で働く幸せを感じ、仕事への新たな意欲を表明しています。



黒田医師は、モンゴル医科大学歯学部の客員教授に任命された



ビデオモデルのオヤンガちゃん

第28期国内研修生および 帰国研修生フォローアップ

実施期間◎ 2011年4月1日～ 2012年3月13日

相手国◎ ネパール／インドネシア

■助成金額■
640,000円

ネパールで協同組合経営の勉強会を開催しました

第29期研修には、ネパールからパッサン・ラマさん、ラメシュ・シュレスタさん、インドネシアからエリザ・フィットリさんの3人が4月14日に来日しました。6週間の日本語研修の後、ネパールのパッサンさん(20歳・女性)は、研修目的の農業と2歳の子どもの母親でもあることから、村の子どもたちの栄養や健康も関心課題であり、保育園や保健福祉センターで栄養や調理、保健衛生なども学びました。ラメシュさん(26歳・男性)は、ネパールで、家族とともに300羽規模の養鶏をしています。短期間で成長するブロイラーに、抗生物質や高価格の高たんぱく飼料が欠かせず、安全生に不安を持っていました。このため今回の研修では、自家配合の飼料での養鶏や有機農業を学ぶことを課題とし、養鶏場での研修がメインとなりました。インドネシアのエリザさん(22歳・女性)は、現地でも洋裁を学びたかったのですが、適当な講師がみつからず、日本での研修課題としました。また来日にあたって、村の人々からは、出産時の死亡や栄養不足の子どもを克服するための栄養や保健衛

生対策、そして、村で豊富なサトウキビやココナッツを使った特産品としてのお菓子づくりの要望が出されていました。研修では、これらを満たす、多面的な研修となりました。また現地では、あまり野菜を食べる習慣がなく、彼女も野菜嫌いでしたが、保健や栄養の学びの中で、自身の野菜嫌いも克服しました。

ネパールへの夏のスタディーツアー(7月28日～8月6日)は、コープこうべの職員・小西さんを講師として派遣し、ポカラ村やガハテ村で協同組合についての学習会を開催しました。研修生の設立したガハテ村の農業協同組合は、肥料の共同購入を行っていますが、今後、換金作物の栽培ノウハウや町の業者への売り込みの協同化などを提案し、協同組合の仕組みや運営から経営へと発展してきています。また、2012年度の来日研修生の面接を行い、ガハテ村のアッチャンマさんとランマヤさんが決定しました。ガハテ村からはすでに4名が研修を行っており、協同組合の発展が期待されます。



ネパール 村人と交流を深めました



第29期の研修生です



ネパールで
現地の食事を
いただきました



第3章

2012年度の活動計画

● ● ● 目次

1. 計画決定の経緯
2. 2012年度のアジア生協
協力基金事業計画
3. 2012年度のアジア生協
協力基金予算
4. 2013年度の一般公募について

1 計画決定の経緯

(公益財団法人) 生協総合研究所・アジア生協協力基金運営委員会(2012年1月24日開催)において、2012年度のアジア生協協力基金の助成活動および予算計画を協議、生協総合研究所理事会に提出しました。2011年2月10日に開催された理事会は、以下の内容で2012年度の事業計画を決定しました。

また、2012年4月19日に開催された2012年度第1回運営委員会は、2013年度の一般公募について、1) 同一団体への助成は、連続3年までとし、できるだけ新しい応募者を優先すること、2) 書類審査について、運営委員会が厳格に選考すること、3) 事業成果報告会は、公開とし、親睦を深めることが論議され、生協総研理事会に提案することが決定されました。6月の理事会決定に基づいて2013年度の公募要領が作成されます。

2 2012年度アジア生協協力基金事業計画

2012年度、アジア生協協力基金は、人材育成を目的とする国際協力助成事業と一般公募助成事業を行います。一昨年まで実施した(公益財団法人) 生協総合研究所(以下、生協総研)の独自企画は、2012年度も、引き続き、研究対象の調査活動を行うこととし、必要経費は、アジア生協協力基金ではなく生協総研の経費での負担とします。本年度は、年間を通して活動状況をウェブ上でも紹介するなど、広報にも力をいれていきます。

(1) 国際協力助成企画

日本生協連・国際活動委員会が行う国際協力助成企画、8件について700万円の助成を行います。今年度より、全国大学生協連と医療福祉生協連による企画が入っています。

	相手国	企画名	予算額
1	アジア	ICAAP選抜生協マネジャー研修受入れ①	2,100,000
2	アジア	ICAAP選抜生協マネジャー研修受入れ②	2,100,000
3	シンガポール(開催国)	ICA-SNCF生協経営ワークショップ・講師派遣	350,000
4	シンガポール(開催国)	ICAAP協同組合ビジネスセミナー・講師派遣	350,000
5	スリランカ	協同組合開発ワークショップ・講師派遣	500,000
6	韓国	韓国生協グループによる共済事業学習会・講師派遣	200,000
7	マレーシア(開催国)	(全国大学生協連)ICAアジア太平洋地域大学・キャンパスコープワークショップ	400,000
8	ネパール	(医療福祉生協連)ネパール人による健康づくり活動と医療活動の交流	1,000,000
合 計			7,000,000

(2) 一般公募助成企画

2012年度は、2012年2月10日の生協総研理事会で決定した7組織の7企画に対する総額400万円の助成を行います。

	申請団体名	助成事業の概要	助成決定額
1	特定非営利活動法人・APLA	東チモールのコーヒー農民が学ぶ「自立」のための協同組合	700,000
2	NGO TECHJAPAN	スリランカの地方女性が起業するためのワークショップに基づく多言語テキストブックの開発	600,000
3	特定非営利活動法人・オアシス	カンボジア貧困村の子ども達への支援者養成プログラム	500,000
4	公益財団法人PHD協会	第30期ネパールからの国内研修及び帰国研修生のフォローアップ	500,000
5	特定非営利活動法人・地球の友と歩む会(LIFE)	ミシン縫製技術研修と現金収入プログラム創出研修による人材育成事業	500,000
6	特定非営利活動法人 Seed to Table ～ひと・しぜん・くらし・つながる～	野菜生産者グループの設立と有機農業技術の応用による貧困世帯の生計改善事業	600,000
7	神戸医療生協	モンゴルでの歯科医療と公衆衛生の向上および健康チェック活動の担い手養成	640,000
総 額			4,000,000

3 2012 年度アジア生協協力基金予算案

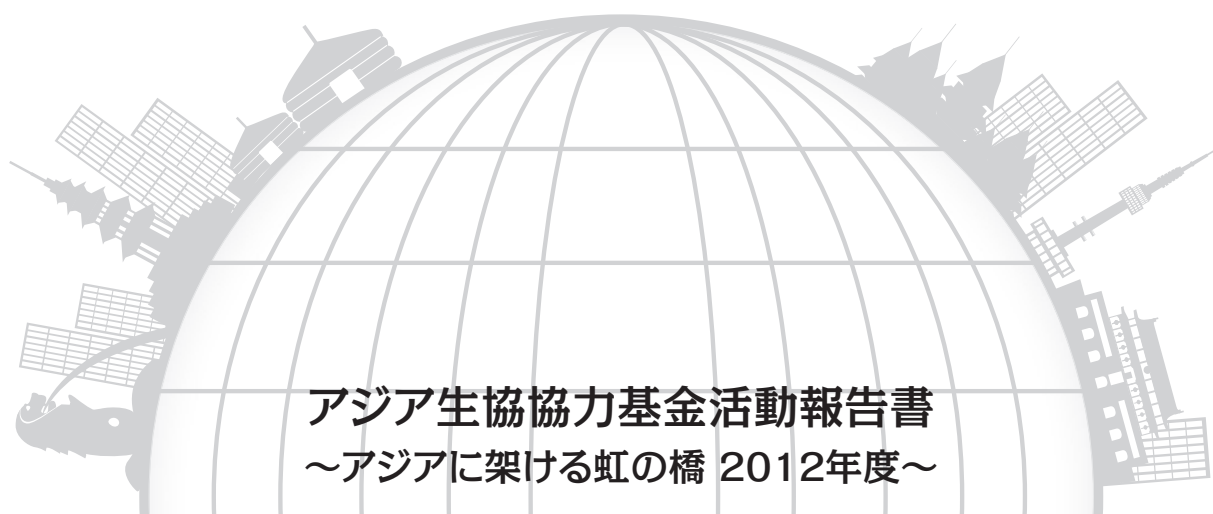
助成予算額を1100万円とし、事業関連経費120万円を加えて1220万円を予算とします。

	2011年度予算	2012年度予算
国際協力助成企画	600 万円	700 万円
一般公募助成企画	400 万円	400 万円
事業関連経費	120 万円	120 万円
合 計	1120 万円	1220 万円

4 2013 年度の一般公募について

「2013年度の一般公募助成事業」は、アジア・太平洋地域における人々の協同事業の発展、および、地域コミュニティの課題解決をはかるための人材育成などを行う日本の国内組織に対して、2012年10月1日～11月30日まで公募します。

公募の案内は、生協総研のホームページのほか、日本生協連や協力いただけるNPO・NGO、中間支援組織のホームページなどでご案内いたします。助成先の決定は、書類選考後、2013年1月の応募者によるプレゼンテーションに基づき、2月の生協総研理事会で決定し、ただちに応募組織に通知されます。



アジア生協協力基金活動報告書 ～アジアに架ける虹の橋 2012年度～

編集・発行：公益財団法人 生協総合研究所

（協力：日本生活協同組合連合会・国際部）

〒102-0085

東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F

TEL.03-5216-6025

メールアドレス：ccij@jccu.coop

ホームページ：http://www.ccij.jp/



アジアに架ける虹の橋

アジア生協協力基金 活動報告書 2012